

国宝キトラ古墳壁画の公開（第 39 回）について

キトラ古墳壁画保存管理施設において壁画公開を実施した。概要は次のとおり。

1. 期 間：第 39 回 令和 8 年 5 月 23 日（土）～6 月 21 日（日） [28 日間]
※閉室日…第 39 回 6 月 3 日（水）・6 月 17 日（水）
2. 場 所：キトラ古墳壁画保存管理施設
(国営飛鳥歴史公園キトラ古墳壁画体験館内)
3. 主 催：文化庁、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所
4. 内 容：第 39 回 天井（天文図）
5. 来場者数：第 39 回 6,636 人（約 277 人／日）（令和 8 年 6 月 16 日現在）

(参考) 過去 10 回の来場者数

第 29 回		10 月 14 日	～	11 月 12 日	(28 日間)	7,404 人
第 30 回	令和 6 年	1 月 20 日	～	2 月 18 日	(28 日間)	5,580 人
第 31 回		5 月 18 日	～	6 月 16 日	(28 日間)	6,717 人
第 32 回		7 月 27 日	～	8 月 25 日	(28 日間)	6,485 人
第 33 回		10 月 12 日	～	11 月 10 日	(28 日間)	7,512 人
第 34 回	令和 7 年	1 月 18 日		2 月 16 日	(28 日間)	5,053 人
第 35 回		5 月 17 日		6 月 15 日	(28 日間)	6,622 人
第 36 回		7 月 26 日	～	8 月 24 日	(28 日間)	6,406 人
第 37 回		10 月 4 日		11 月 2 日	(28 日間)	7,572 人
第 38 回	令和 8 年	1 月 17 日		2 月 15 日	(28 日間)	6,042 人

国宝高松塚古墳壁画修理作業室の公開アンケート結果について

平成 20 年度～令和 7 年度まで高松塚古墳壁画修理作業室の公開を実施し、累積参加者数は 85,189 名であった。

今年度より修理作業室の公開が休止となることから、約 20 年間でどのような意見の変化があったかをアンケートから分析した。

※修理作業室の公開は、平成 20 年度～平成 28 年度までは年に 2 回程度、平成 29 年度からは年に 4 回の公開を実施した。また、新型コロナウイルス感染症によって第 29 回は中止となり、その後は参加人数も 1 日 400 名程度から 200 名程度へ変更した。

第 16 回 平成 29 年 1 月 21 日～1 月 27 日：アンケート回答者数 1191 人

第 52 回 令和 8 年 1 月 17 日～1 月 23 日：アンケート回答者数 1176 人

①居住地

関西から来訪者が最も多い傾向は変わっていないが、第 52 回では広域からの来訪者が増えており、観光資源としての認知も示唆される。

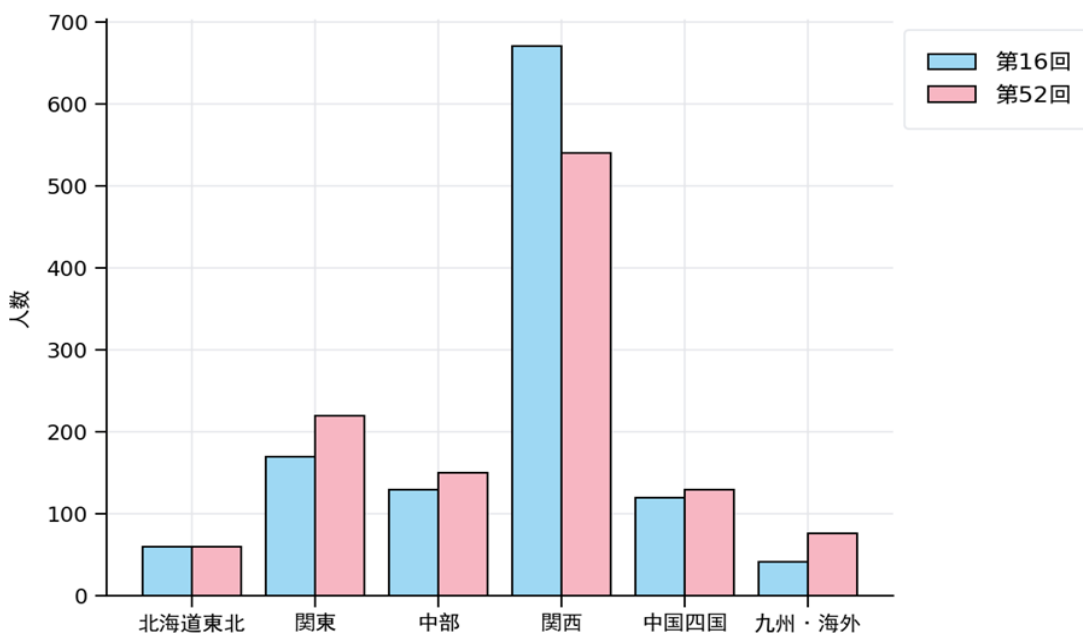


図 1 来訪者の居住地比較

②認知経路

新聞から HP・SNS 中心へ移行し、受動型から能動型の情報取得に変化してきた。デジタル導線の重要性が増大。ただし、参加応募の方法が HP での受付になったことも大きな要因と考えられる。

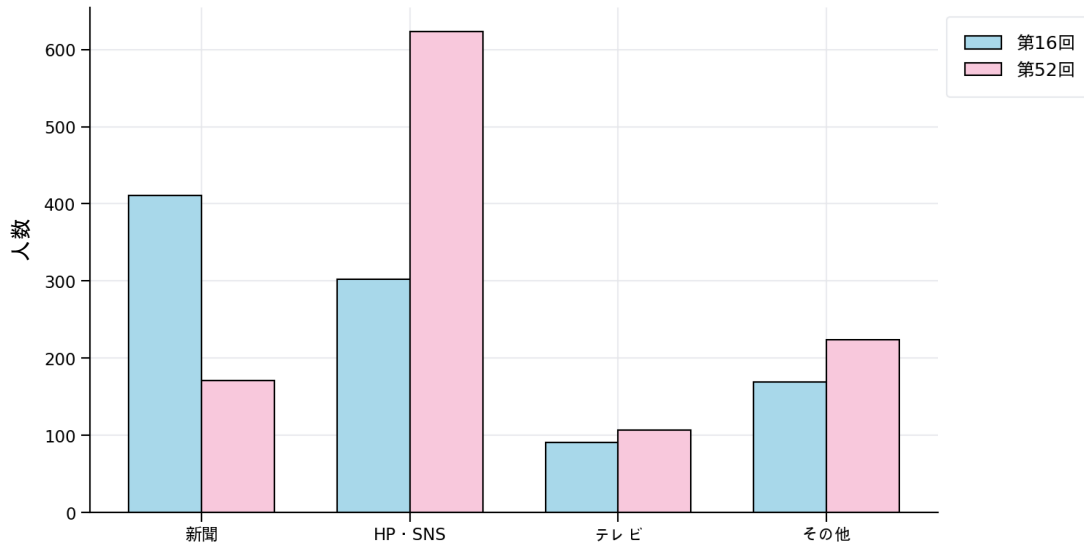


図2 来訪者の公開に関する情報の認知経路比較

③交通手段

車・電車中心は継続しつつ徒歩等が増加し、単独訪問から周遊観光へ変化してきたと考えられる。

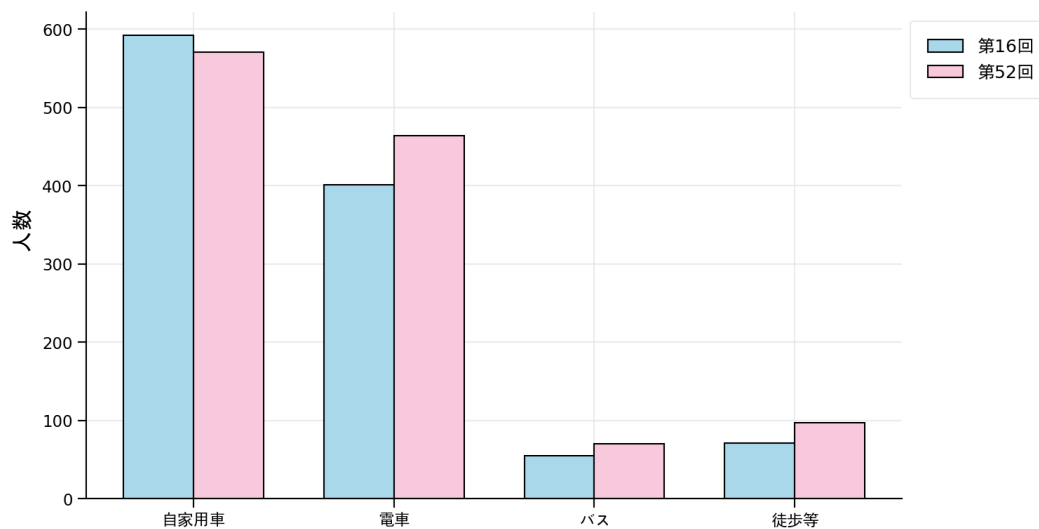


図3 来訪者の交通手段比較

④自由回答での意見

【評価の変化】

第16回では「感動」「丁寧」「貴重」といった体験そのものの価値評価が中心であったが、第52回では、これに加え「オペラグラス」「予約」「人数管理」など具体的サービスへの評価が増加し、体験の質が評価された傾向であった。

【課題の変化】

第16回では導線・設備・情報不足など基本課題が多く、第52回ではWEB申込・音声・細かな見やすさが課題となるなど“細部品質”への意見へと変化した。

【全体】

運営成熟度の向上、利用者期待の高度化、評価の具体化・細分化が確認でき、第16回から第52回にかけては「壁画を見た感動」から「高品質な文化体験」へと移行した。

【修理・保存に対する意見の変化】

第16回では、修理や保存に対して「大変さへの気づき」「文化財として残してほしい」という意見が中心であったが、第52回では「カビ抑制や管理」「保存方法や公開とのバランス」といった、より具体的な保存課題への理解に言及した意見が増えた。

【壁画に対する意見の変化】

第16回では「実物を見られた感動」「色彩の鮮やかさ」など、初見としての感動が多く、第52回ではリピーターの来訪によって「以前よりきれい」「見やすい」など経年比較的な視点が見られ、壁画修理事業の成果が目に見える形で提示できたことは修理作業室公開の大きな成果と言える。

【修理・保存に関する代表的な意見】

第16回

- ・ 貴重な文化財を保護するのは大変なことだと感じた。
- ・ 修理作業の大変さがわかる良い体験だった。
- ・ 保存に力を入れていることが納得できた。
- ・ 未来の人たちに残してほしい。
- ・ 修復の大変さが実感できた。

第52回

- ・ カビを抑えるのは大変だと思うが頑張って保存してほしい。
- ・ 保存がいかに大変かよく分かった。
- ・ 管理が徹底されていると感じた。
- ・ 修復された壁画を見て感動した。
- ・ 保存と公開のバランスが大変だと思う。

【壁画そのものに関する代表的な意見】

第 16 回

- ・実物にふれてとても感動した。
- ・壁画を近くで見られて貴重な経験だった。
- ・壁画の彩色あせが想像していたよりもひどかった。
- ・最初の発見以降にカビなどが生えて劣化してしまったのは残念だが、その後の修理作業が丁寧に進められていて良かった。
- ・壁画はすごく素敵だった。

第 52 回

- ・青龍が見にくい。
- ・教科書で見たものが実際に見られて良かった。
- ・以前よりきれいになっていた。
- ・斜めから壁画を見ることのもどかしさを感じた。
- ・修理完了後の展示に期待する。